

《 大町の寺・由比ヶ浜の遺跡を巡る 》

例年より早く梅雨が明けてしまい、少々暑い一日でしたが、鎌倉駅から海岸方向へ、大町の寺々由比ガ浜あたりの遺跡を、大貫昭彦先生のご案内をいただき、有意義な散策を楽しみました。

＜実施日 平成30年7月3日（火）、参加者17名でした。＞



《教恩寺境内で》

開山は、永禄年間（1558～1570）で、開基は北条氏康。寺宝には、本尊阿弥陀三尊像がある。（県重文）

本堂へ向かう右手に、見事なアジサイが咲いていました。



《大貫先生の講話》・・・教恩寺の本堂の中で・・・

平家物語の中から、「奈良炎上」の段と、「千手の前」の講釈があり、時代に浸りました。



《本覚寺の境内》

途中立ち寄った本覚寺の境内に、見事な蓮の花が咲いていました。



《大町の通り》

住宅もある大町の通りには、お祭りの提灯が。

そして住居の 2 階壁面には、ノウゼンカズラの蔓に橙赤色の花がびっしりと咲いていました。



《八雲神社》

鎌倉市大町に所在する神社。厄除け開運の神社として知られており、社伝によれば、永保年間源義光が奥州に向かうのに際し、鎌倉に疫病が流行しているのをみて、京都祇園社の祭神を勧請し、祭ったのが始まりと伝えられる由。関東大震災で倒壊、昭和5年に再建された。



《妙本寺にて大貫先生から吾妻鏡と比企一族の悲劇の講話を聴く》

日蓮宗の寺で、創建は、文応元年（1260）、開山、日朗 開基、比企能本
史跡 比企一族の墓
比企一族の聴くも涙の話でありました。



《由比ガ浜の史跡》

ホテル若宮のレストランで美味しい昼食の後、由比ガ浜の海岸へ出ました。
滑川橋付近で、現在は鎌倉海浜公園になっているこの場所は多くの骨が出土したところで、
現在は地下が駐車場になっている。左前方には海岸に所在する逗子マリーナが望めました。



《高砂稲荷（たかすないなり）》

高砂稲荷の名称の由来は、由比ガ浜から続くこの辺りが砂丘になっていて、高台にあったことからの由。薩摩出身の初代大蔵大臣、のちに、内閣総理大臣を2度務めた松方正義公爵が別荘を建てたとき、この稲荷社を修理し、毎年欠かさず初午祭を行っていたそうです。関東大震災に見舞われたとき、別荘も倒壊し松方は太い棟木下敷きになってしまったが何処からともなく鋸を持った老人が現れ、書生に貸してくれ、無事松方を救い出しお礼を言おうとしたら、老人の姿はなかった。松方公爵は高砂稲荷のご加護だったと直感された、という話が残っている由。